

平成 26 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	建築計画Ⅱ	担当教員	藤田大輔		
学年学科	4年 建築学科	通年	必修	2 単位(学修)	
学習・教育目標	(D-4) 100%		JABEE 基準 1 (1) : (d)		
<b>授業の目標と期待される効果：</b> 近年における建築物は、単一の機能・役割を想定するだけでは不十分で、人間の行為や空間に対する嗜好評価を把握しつつ、弾力的かつ多様な機能を想定する必要がある。 本授業では、建築計画の今日的役割と実際の設計との関わり、修得すべきキーワードの解説、および空間に対する人間の行動・意識・心理の調査方法について解説し、さらに自ら取り組むことができる演習を行う。具体的には以下の項目を目標とする。 ①建築計画の今日的役割と実際の設計との関わりについて把握する ②建築計画に関わるキーワードとその内容を把握する ③観察調査手法を理解し自らレポートすることができる ④意識評価手法を理解し自らレポートすることができる		<b>成績評価の方法：</b> 前期中間 100 点、前期期末 100 点、後期中間 100 点、後期期末 100 点、以上 4 試験・課題の総得点率 (%) によって成績評価を行なう。 なお、成績評価に教室外学修の内容は含まれる。 <b>達成度評価の基準：</b> 教科書および講義で説明した内容について試験を課し、6 割以上の正答レベルまで達していること。さらにそれに関わる演習課題について 6 割程度理解していること。 ① 建築計画の今日的役割と実際の設計との関わりに関する試験問題において 6 割程度正答できること ② 建築計画のキーワードに関する試験問題において 6 割程度正答できること ③ 観察調査手法を理解し適切にレポートできること ④ 意識評価手法を理解し適切にレポートできること			
<b>授業の進め方とアドバイス：</b> 教科書の補足として身近な事例を提示し授業を進める。さらに課題を通して授業内容に対応する事例を自ら発見し主体的に理解を深めて欲しい。					
<b>教科書および参考書：</b> 教科書：設計に活かす建築計画（内藤和彦・橋本雅好・日色真帆・藤田大輔編 学芸出版社） 参考書：コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編 丸善）／建築・都市計画のための調査・分析方法（日本建築学会編 井上書院）					
<b>授業の概要と予定：前期</b>			<b>教室外学修</b>		
第 1 回：変化する社会と建築			デザインと環境問題、環境と市民のあり方、専門家の姿について理解を深める		
第 2 回：建築計画の役割と広がり			計画プロセス、諸技術の細分化と統合について理解を深める		
第 3 回：計画・設計の進め方			協同の設計体制の意義について把握する		
第 4 回：企画と基本設計、設計の実際			企画から設計までの内容と役割を理解する		
第 5 回：外部空間の計画			都市景観、建築の建ち方を理解する		
第 6 回：パーソナルスペース・空間認知			各キーワードを提唱した人物について調べ学習する		
第 7 回：中間領域・居場所			—		
第 8 回：中間試験			—		
第 9 回：調査の方法と概要			建築計画の調査の意義を理解する		
第 10 回：観察調査の方法（家具・しつらい）			実測調査の注意点を把握する		
第 11 回：観察調査の方法（デザインサーヴェイ）			—		
第 12 回：観察調査の方法（行動観察）			デザインサーヴェイ、行動観察、動線について学内で実際に調べ、学習する		
第 13 回：観察調査の方法（動線）			—		
第 14 回：観察調査の分析手法			—		
第 15 回：観察調査の事例紹介			関連する既往研究について調べ理解を深める		
期末課題			—		
第 16 回：フォローアップ（課題を返却し解説および評価方法の説明）			—		
<b>授業の概要と予定：後期</b>			<b>教室外学修</b>		

第17回：アクティビティ・シーケンス	ヘルツベルガー、ベンチャーリの著書について調べる
第18回：歩行群衆・ユニバーサルデザイン	非常時の群衆制御、UD7原則を把握する
第19回：尺度・デジタルデザイン	デジタルとアナログデザインの差を理解する
第20回：ワークショップ・ファシリティマネジメント	FM標準業務サイクルを理解する
第21回：転用再生・複合化	再生手法の4レベルの意義を理解する
第22回：コンパクトシティ・コンテクスト	コンパクトシティ9原則を理解する
第23回：風土と歴史・環境	バナキュラー建築、歴史の引用について理解する
第24回：中間試験	—
第25回：意識評価の方法（アンケート調査）	アンケート調査の注意点について理解する
第26回：意識評価の方法（KJ法）	各方法について実際に用いられている研究等を調べ学習する
第27回：意識評価の方法（SD法）	
第28回：意識評価の方法（エレメント想起法）	
第29回：意識評価の方法（認知マップ）	
第30回：意識評価の分析手法	関連する既往研究について調べ理解を深める
第31回：意識評価の事例紹介	
期末課題	—
第32回：フォローアップ（課題を返却し解説および評価方法の説明）	—